

# よさこいクラブ高知

発行者:高知県老人クラブ連合会 高知市朝倉戊375-1 電話(088)844-9154  
ホームページ:<http://www.yosakoicroc.net>



## ご挨拶

高知県老人クラブ連合会

会長 鈴木 彬夫

会長職2期目の挨拶をさせていただきます。

ここ10年近く老人クラブ活動は長い長い停滞期にあり、下り坂をひたすら転げ落ち歯止めがかかっていません。



今、水平あるいは上昇のトレンドに持ってゆくことが試されています。

現場百回、困った時は現場に聞け、問題も答えも現場にあり。古今の名著も、先人も、そう言っています。

県老連は市町村老連に、市町村老連は単老に問題の本質を見つけ出し、解を得るヒントがあると思っています。

フットワークが勝負。自分を動かすことが出来るかどうか勝負どころではないでしょうか。

## 役員紹介

6月9日に開催された第2回理事会で新しい役員と副会長が選任されましたので紹介いたします。

### 副会長



**西村 和彦**（高知市）

新しい時代にふさわしい高齢者の団体として構築されることを祈ります。



**土居 啓之**（土佐市）

みんなが参加しやすい事業を目指しています。



**山本 幸子**（日高村）

はちきんパワーを発揮したいと思います。



**岡部 卓雄**（南国市）

若手で頑張っています。

### 理事

三宮 尊良（高知市）	中岡 恒子（高知市）
山本 俊暢（南国市）	野村 靖（安芸市）
所谷 茂（宿毛市）	三木 篤（土佐清水市）
湯地 康夫（四万十市）	島崎 義幸（香南市）
三木 實正（香美市）	山嶋 丈（北川村）
秋山 弘安（大豊町）	加藤美代治（いの町）

黒川 武志（仁淀川町） 竹邑 正吉（佐川町）  
 高橋 利直（中土佐町） 植田 浩三（四万十町）  
 中越 順市（梶原町） 乾 正二（大月町）  
 生駒 進（黒潮町） 田中きよむ（県立大）  
 和泉 禎祐（常務理事）

## 中国・四国ブロック 老人クラブリーダー研修会

中国・四国ブロックリーダー研修会が、6月29日から30日にかけて、広島県呉市で開催され、高知県からは鈴木会長はじめ、23名が参加しました。

初日は、「のばそう！健康寿命」、「担おう！地域づくりを」、「がんばる！若手委員会」の3つの分科会に分かれ、活動発表がありました。高知県からは、四万十町老連の植田浩三会長が、高幡の4町で開催している若手高齢者スポーツ等交流大会について、活動内容や成果について発表しました。

また、翌日は、呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」戸高館長から、「呉の元気を発信する大和ミュージアム」と題して、日本の造船技術の明治期の急速な発展と第2次大戦後の復興について興味深い講演がありました。

大会では、広島市老連の方々が揃いの赤のベストを着用し、会場近くの道案内や玄関や受付での暖かい出迎えなど、心のこもったおもてなしをいただきました。



事例発表する植田会長



## 第59回 四国老人クラブ大会

8月3日に四国老人クラブ大会が徳島市のあわぎんホールで開催され、本県からは総勢118名と多数のクラブ員が参加しました。式典では、老人クラブの発展に功績のあった14名が表彰され、本県からは3名が受賞されました。

式典終了後、記念講演として、「心と体を癒す笑いの力～笑いヨガで超健康になる」と題して、徳島

市医師会常任理事で中瀬医院院長の中瀬勝則氏の講演がありました。

その後、4県の活動発表があり、高知県からは、室戸市羽根寿会の坂本茂会長が「魅力あるクラブづくりと活性化の推進『寿会の挑戦』」と題して活動のための資金づくりから取り組みについて発表がありました。

本県受賞者は次のとおりです。

湯地 康夫(四万十市) 所谷 茂(宿毛市)  
秋山 弘安(大豊町)

## 第6回 元気ハツラツ交流会

8月26日に第6回元気ハツラツ交流会が高知市春野文化ホールピアステージで開催されました。

今年も多くのお観覧者を迎え、芸能発表や市町村

紹介、借り人競争、認知症予防スリーAゲーム、抽選会など盛りだくさんの出し物に出演者と観客が一体となって楽しい一日を過ごしました。



北川村老連



借り人競争



香美市老連



いの町老連



土佐清水市老連



宿毛市老連

## 第57回 高知県老人クラブ大会

第57回高知県老人クラブ大会が11月8日にふくし交流プラザで開催されました。



県内各地より300人の老人クラブ関係者が出席されました。

ご来賓として、高知県知事（代理 地域福祉部井上達夫副部長）、高知県議会浜田英宏議長、県社会福祉協議会小田切泰禎会長をお迎えしました。

大会では式典のあと、大豊町西峰老人クラブ福寿会の前会長上村賀廣さんの事例発表、アトラクションとして「コーラスうたうちや高知家♪」のコーラスが披露されました。

本大会で受賞された団体・個人の方々は次のとおりです。〈敬称略〉

小蓮長寿会（南国市）

### 高知県知事表彰

吾井郷第二さくら会（須崎市）

藤ノ川老人クラブ寿会（四万十市）

### 県老連会長表彰

#### ◎役員功績者

田内 律子（室戸市）	松村 元良（室戸市）
松本 孝子（安芸市）	岡部 卓雄（南国市）
坂本光智子（南国市）	山岡 正和（南国市）
前川百合子（南国市）	石元 康之（土佐市）
間嶋 弘子（須崎市）	谷 勝博（須崎市）
上村 作（宿毛市）	川島 一夫（宿毛市）
東 英世（四万十市）	矢間知恵子（四万十市）
川村 春美（四万十市）	樋永 良水（四万十市）
湯地 黎子（四万十市）	澤田佳代子（香南市）
野本美代子（香南市）	吉永 圭一（田野町）
松高 順（大豊町）	藤田 絹代（いの町）
千頭 桂子（いの町）	伊東 祥倫（いの町）
川村香代子（いの町）	曾我 忠宏（いの町）

植田 和生（仁淀川町）	三宮 安子（中土佐町）
藤原 静子（佐川町）	坂本 貞雄（佐川町）
横畠 則男（佐川町）	庄野 潤一（佐川町）
堅田 悦子（佐川町）	市川 善八（梶原町）
川上 原弘（梶原町）	中越 利明（梶原町）
田邊 盛幸（梶原町）	森山 定幸（梶原町）
垣内 陽三（日高村）	宇都宮登志（津野町）
氏原 正幸（津野町）	市川 勝久（津野町）
武政 里見（黒潮町）	浜町一三男（黒潮町）
高橋 長子（黒潮町）	国友 時子（黒潮町）
篠田トミエ（黒潮町）	

#### ◎会員功績者

柳瀬小枝子（南国市）	山本 政美（宿毛市）
渡辺 徳美（四万十市）	本山 静子（四万十市）
岩村 太郎（四万十市）	渡辺 貴子（大豊町）
尾崎 芳子（いの町）	山崎 良子（いの町）
田上 長子（いの町）	山崎 幸嬉（黒潮町）

#### ◎優良老人クラブ

稲生あけぼの老人クラブ（南国市）  
井沢澁刺会（四万十市） 高角梯成クラブ（本山町）

#### ◎優良市町村老人クラブ連合会

高知市老人クラブ連合会

#### ◎会員増強老人クラブ

押ノ川老人クラブ（宿毛市）  
どんぐり湖（宿毛市）

#### ◎特別功労者

土居 啓之（土佐市）  
矢田 泰蔵（土佐町）  
宮崎 恒吉（奈半利町）  
澁谷 良雄（日高村）  
植田 浩三（四万十町）  
谷岡壽満子（室戸市）



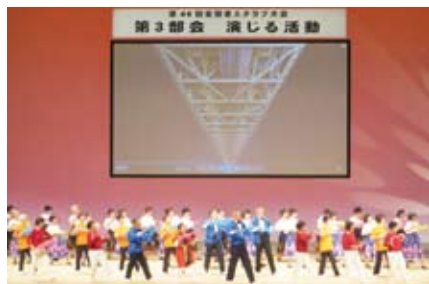
事例発表の上村賀廣さん



コーラスうたうちや高知家♪

## 第46回 全国老人クラブ大会

10月18・19日の2日間、第46回全国老人クラブ大会が開催され、全国から1,650人が秋の京都に集まりました。本県からは鈴木会長はじめ20名の参加がありました。



初日は、三つのテーマに分かれた活動交流部会、2日目は、全国からの参加者が一堂に会して、式典が実施されました。

式典で表彰された本県会員と団体は次のとおりです。

### 厚生労働大臣表彰

#### ◎老人クラブ育成功労者

加藤美代治（いの町） 矢野 定（佐川町）

#### ◎優良老人クラブ

西峰老人クラブ福寿会（大豊町）

#### ◎優良市区町村老人クラブ連合会

室戸市老人クラブ連合会

### 全国老人クラブ連合会会長表彰

#### ◎育成功労表彰

北村 光（本山町） 永富 鶴美（宿毛市）

#### ◎優良老人クラブ表彰

浜田クラブ（田野町）

#### ◎優良郡市区町村老人クラブ連合会表彰

大月町老人クラブ連合会

## 地域の活動

### 単老の活性化に事務局も奔走

本山町老人クラブ連合会では昨年度から事務局職員が単老に出向き、聞き取り調査を行っています。

近年解散してしまうクラブが増加し、平成25年には14

クラブあった単位クラブが平成28年には9クラブにまで減少してしまった現状に危機感を持った町老連と事務局が、単位クラブの手助けをして魅力あるクラブをつくることで解散を阻止しようと始めました。

9クラブ全ての単位クラブをまわり、これから取り組んでみたい活動や事務局への要望などを聞き取りました。

そういった事務局の努力が功を奏したのと、休眠クラブに役員が働きかけ復活に漕ぎ着けたことなどがあり、28年度は本山町老連で29人も会員が増加しました。

事務局が訪問することで単位クラブの現状を把握することができ、問題解決の手助けをしていく。また、単位クラブは悩みを相談できるだけでなく、自分たちの活動状況を知ってもらうことで、よりよい活動につなげていくことができます。

そんな単老聞き取り調査に9月のある日、同行させていただきました。訪問先は本山町一区にある「若宮会」。地区のコミュニティーセンターに会長の前田さんをはじめ、活動の主力メンバーである女性4人が集まっておられました。聞き取りをするのは本山町老連事務局の横田さんと柴田さんのお二人です。

会員数33名で、70歳代の会員がおらず、平均年齢が83歳という高齢化がすすんだクラブということでしたが、毎週1回百歳体操を行っており、健康づくりへの意識が高いクラブというだけあって、集まってくださった方はどの方も若々しい方ばかりでした。

事務局のお二人とは気心が知れており、クラブ活動のことや地域の状況なども和気藹々となごやかに聞き取りが進んでいきました。「若宮会」として今後取り組んでみたいこととして、シーズンにお花見に出かけてみたいので、その際の送迎を事務局に協力して欲しいという話が出、事務局はできるだけの協力をするということを約束して、聞き取り調査は終了しました。



本山町老連では町老連の事業への参加は、希望者から直接事務局へ連絡をしてもらうようにしているそうで



す。こうすることで、単位クラブの役員がとりまとめをする手間が省けるとともに、本人の意思がきちんと伝わるという利点があるようです。

高齢化が進み、人口も減少していく中でみんながいきいきと健康で助け合いながら暮らしていくためにも、老人クラブを存続させていくことは大切なことです。本山町老連は事務局と単位クラブが手を携えてしっかりと歩んでおられます。

## お茶栽培で活動資金づくり

### 土佐町老人クラブ連合会



「老人クラブの補助金は少ないうえに自由に使えなくて困る。」という話をよく耳にします。自由に使える自主財源の確保はどのクラブでも懸案となっているようです。お茶の栽培で自主財源づくりをしている土佐町老連の活動をご紹介します。

土佐町の南川地区が限界集落となり、お茶の栽培が続けられなくなったが、荒れていく茶畑を見るのは辛いという話を町社協職員が聞き、お茶の栽培を老人クラブ活動に結びつけたらと考えつきました。老人クラブに持ちかけたところ、会員の中には自家用にお茶を栽培している人も多く、栽培の経験があるのでお茶で活動資金作りをしようというということになり、こうしてお茶栽培の取り組みが平成19年から始まりました。

作業は10月と3月に畑の手入れ、草刈り、肥料まき等の作業をし、5月に茶摘みをして、JAを通じて製茶作業をする業者に出します。6月に製茶となり大きな袋に入れて帰ってきたものを90g入りの袋に入れて、製品にしています。お茶栽培の担当を決め、その担当がお茶の様子を見て作業の招集日を決めており、草刈り等の作業に15人程度が2回、お茶摘みに35人程度、製品にする作業に20人程度の人手が要るようです。

お茶栽培の作業には、普段老人クラブ活動に参加

できないという方も、作業ならできるからと参加されたり、お茶摘みは楽しいからと両杖を突いている方も参加されるなど、やりがい、生きがいに繋がっているようです。



売り上げは20万円程になるそうで、旅行や食事会、バーベキュー等の楽しみに使われています。

まだまだ借りられる茶畑はあるようですが、作業をする人の確保の問題があり、今の面積をつくるのがやっとのこと。無農薬で栽培をしているため、木に病気がつくなど弱ってきているという問題もあるようです。

しかし、土佐町へ移住をしてきた人に呼びかけて作業を手伝ってもらったり、お茶の購入者や販売に協力してくれる方等との繋がりができたりとお茶の栽培は活動資金づくりだけではなく、人との繋がりをもたらしてくれています。

土佐町老連では、町内の喫茶店を借りて一日だけのカフェをオープンする事業も始めたそうで、今後はこのカフェの回数を増やしていき、生産したお茶をおいしく飲めるカフェにし、お茶を購入してくれる方々との交流にも繋がっていきたいと考えておられます。





## 昭和の思い出

岩城 安男さん(85歳・馬路村)

終戦後、馬路村に戻ってきた岩城安男さんは森林鉄道のレールを敷く仕事をしていたお父さんと一緒に働くようになり、昭和23年から運転士として採用されました。

燃料の石炭を温めるため、他の人達より早く出勤しなくてはならず、冬は辛かったそうです。材木を下ろした後、若気の至りでスピードを出し過ぎて脱線してしまったことも数回あったとのこと。幸い軽いケガで済んだそうです。

当時の森林鉄道の運転士は花形職業で、女性にモテたと岩城さんは嬉しそうに教えてくれました。



昭和23年 撮影



## 旅の思い出

いの町老人クラブ連合会 会長 加藤 美代治さん(87歳)

昭和62年7月に妻が所属している「高退教 山の会」のメンバーに同伴させてもらいヨーロッパアルプスに12日間の登山、トレッキング旅行に出かけました。

若い頃より日本百名山の一部や四国の山々に登っていたので、一度外国の素晴らしい山々へ登ってみたいと思っていました。

スイスの山々の美しい眺めや登山道に咲いたエーデルワイスなどの美しく愛らしい花々に魅せられました。特に写真のバックに写っているマッターホルンとその山の姿が映ったリッフェル湖は実に美しいものでした。

ツェルマットのホテルで3泊しましたが、そのホテルでの出来事でした。ホテルの従業員から、「皆さん、日本のどこから来ましたか?」と日本語の上手な娘さんに話しかけられました。「高知です。」と答えると、彼女はびっくりしたような声で、「私も高知の春野というところですよ。」との答え。こちらもびっくりして「私たちは隣のいの町ですよ。」と言うと、彼女は本当に嬉しかったようで、微笑んで私たちの手を握り、春野という町の話に夢中でした。

聞けば、彼女はスイスの山々と土地の人々の人情に魅せられ毎年スイスに来て、山を降りた後はホテルの手伝いをしているとのことでした。

彼女は今、どこで、どうしているだろうと、時々思い出します。



マッターホルンをバックに(本人中央)





## 私のグッドタイム



### 野村授枝さん(102歳・安芸市)

野村授枝さんは大正4年4月生まれの102歳。安芸市老連の野村会長のお母様です。野村会長と親子二人で暮らしておられる安芸市穴内のご自宅を訪問しました。

玄関からお呼びすると元気な足取りで授枝さんが出て来られました。家の中に案内され、授枝さんがお気に入りの庭が見渡せる縁側でお話をお伺いしました。部屋はとも気持ちよく整理されており、快適に暮らしておられることが想像できます。今でも家事全てを一人でこなされているとお聞きして感心するばかり。102歳の現在、耳が少し遠くなったのと歩くのが少し不自由になったことを除けば体に問題がないとのこと。歯もご自身の歯で、目もよく見えて、メガネなしで新聞も読めるそうです。

授枝さんは25歳から63歳まで安芸市や室戸市で小学校教員として勤められ、女手一つで3人の息子さんを育てあげたそうです。退職後には地区の老人クラブの会長を務めたこともあるそうです。

授枝さんが若い頃に立てた目標は、「家を建てること。」「こどもを大学に行かすこと。」「お墓をきれいにすること。」の3つだったそうで、この3つとも見事に叶えることができて、とても満足されているそうです。

授枝さんに元気で長生きの秘訣をお伺いすると、小さい頃からとにかくお腹いっぱい食べなさいとお父様に言われて育ってきたので、今でも何でもよく食べることがよいのではとおっしゃっています。長生きできているのは、自分の力ではなく、「弱いものいじめはしない。曲がったことはしない。人に優しくする。」ということをやっと続けてきたことへのご褒美として仏様が長生きをさせてくださっているような気がするそうです。

今の楽しみは、特別なことでは無く、好きな時にテレビを見たり、新聞を読んだり、庭を眺めたりと気ままに生活することだそうです。「今、一番幸せ。生きてることが楽しい。」とおっしゃいます。

日記と家計簿は何十年も毎日欠かさずつけているそうで、習慣となっているのでちっとも苦にならないそうです。日記は振り返って読むことは無いそうですが、一日を思い出して日記を書く事は良い脳トレになっているのではと、しっかりとした受け答えをしてくださる授枝さんを見ているとそう思わずにはいられません。

悠々自適の毎日を今が人生のグッドタイムと過ごされている授枝さん、どうか、いつまでもお元気で。

### 川柳、俳句、短歌を募集します。

県老連では、「よさこいクラブ高知」に掲載する川柳、俳句、短歌を随時募集します。応募いただいた作品は次号から掲載していきますので、たくさんの作品をお待ちしております。

#### ■応募先

〒780-8565 高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ4階 高知県老人クラブ連合会  
ファックス088-840-5299 電子メール info@yosakoiroc.net